



①新しい本社屋を建設中で、2020年に完成予定 ②チリやホコリを排除したクリーンルーム工場で製造する ③i-Medicoat・アイ・メディコート  
④展示会にも積極的に出展し、技術力をアピール ⑤綿密な打ち合わせを行いながら製造する ⑥徹底した品質管理を行い、質の高い製品を製造する

## 最新鋭工場で、高機能性プラスチックフィルムへのコーティング 難しい要望を達成するものづくりへの情熱が 電子機器や医療など、あらゆる分野を支える

金銀糸を生業とする家に生まれた中島睦夫氏が、金銀糸用着色コーティングフィルムを製造する会社を昭和52年11月に起業したのが中島工業株式会社始まり。進取の気性に富んだ中島社長は、金銀糸製造の技術を活かして工業分野に進出。様々な試作や開発に挑戦し、技術と品質の良さから、磁気テープ（カセットテープ）などの製造依頼が舞い込んだ。多様な依頼に応える毎に、社員や製造機械が増え、確実に会社の規模が広がっていった。

### 難度な要望も実現する社員の情熱

90年代後半から国産ノートパソコンが普及し、2000年からは小型化・軽量化で各社が競い合う。中島工業も95年にセミクリーン工場を建設し、光学フィルム用途事業へ参入する。

「軽い強い」「薄いが耐久性がある」といった矛盾する目標をメーカーは要望され、それを実現させるのが、私たちの役目。ものづくりへの情熱で粘り強く何度も挑戦し、あらゆる難題をクリアしてきました」と語る中島社長。ノートパソコンの天板、電子レンジや家電製品の薄シート状スィッチ（メンブレン）など、中島工業は様々な製品を手掛けるようになっていく。

### 最先端の電子機器を支える技術

現在、電子機器分野では、高機能性フィルムコーティング製造に力を入れ、スマートフォン、タブレットPC、タッチパネル機器の内部に採用されている。「AI時代が到来する中、世界大手メーカーから、日々多様な製品開発の要望が伝えられる。今後益々、社員の情熱と創意工夫が、問われてくる。常に新しいものへの挑戦が必要」と中島社長。新時代に挑む、若い社員の採用や教育にも力を注ぎ、社員同士が切磋琢磨する環境を整えたいそうだ。

### 新たな付加価値が未来を拓く

これまでの技術や経験を活かした自社製品も誕生している。神戸大学大学院教授（当時）と共同で、「手術室でタブレットパソコンを使いたい」という要望に応え、多機能情報端末隔離デバイス「i-Medicoat・アイ・メディコート」を完成させた。世界初の製品で、特許を取得し、米国アップル社のホーム・ページにも紹介されている。この製品は、タブレットパソコン本体を入れる滅菌された袋で、薬液や血液が付いた手術手袋で触れてもタッチ操作ができる優れたもの。医師が日常活用しているタブレットパソコンやスマホを手術室に持ち込むことが可能になり、大変好評だそうだ。



中島工業株式会社  
[創業] 昭和52年  
[従業員数] 180名  
[資本金] 8,000万円  
[事業内容] プラスチックフィルムに対するコーティング及び設計・開発  
[本社]  
城陽市平川広田87-5  
TEL 0774-54-1771



ロゴを転写するフィルム

中島睦夫社長